

(様式1)

「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成28年度委託事業完了報告書【総括】

都道府県名	北海道	番号	01
-------	-----	----	----

推進地区名	協力校名	児童生徒数
遠軽町	遠軽小学校	177

※ 児童生徒数については、今年度、協力校に在籍する児童生徒数を記述する。

○ 実践研究の内容

1. 推進地域における取組

(1) 本実践研究を適切に行うための推進体制

本事業関係者や学校力向上に関する総合実践事業（注1）の管理職、PTA関係者等で構成した「北海道学力向上推進協議会」を開催し、推進地区及び協力校に対する指導助言及び本実践研究の成果等の検証を行った。

- ・ 第1回北海道学力向上推進協議会：平成28年10月18日（火）
- ・ 第2回北海道学力向上推進協議会：平成29年2月9日（木）

(2) 推進地域としての支援策

① 教育課程・指導方法に係る指導助言

- ・ 推進地区、協力校に対して、「平成28年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書」及び全国学力・学習状況調査の調査結果を詳細に分析することができる「分析ツール 北海道版」（注2）を提供し、調査結果に基づく分析資料の作成を支援し、協力校の学力向上に係る課題を明確化した。
- ・ 協力校に対して、平成28年度全国学力・学習状況調査結果で明らかになった課題を踏まえた検証改善サイクルの確立に係る指導助言を行うことにより、課題解決の具体的な取組を支援した。
- ・ 協力校に対して、授業の冒頭に学習の見通しを理解させたり、授業の最後に学習した内容を振り返る機会を確実に位置付けたりするなど、授業改善の促進を働きかけた。
- ・ 学習規律の徹底など、学校全体での組織的な学習環境の整備に関わる指導助言を行った。
- ・ 北海道独自の問題「ほっかいどうチャレンジテスト」（注3）を北海道学力向上Webシステム（注4）で配信し、児童一人一人のつまずき等を把握し、学力向上を図る取組が促進されるよう支援した。

② 家庭や地域との協働関係の構築

- ・「分析ツール 北海道版」を提供し、全国学力・学習状況調査の分析結果や改善方策、学力及び生活リズムに関する明確な数値目標など、保護者や地域住民に分かりやすく説明し、課題を共有する取組を推進するよう指導助言を行った。

- ・「生活リズムチェックシート」（注5）を活用し、望ましい生活習慣等の確立に努めるよう指導助言を行った。

③ 推進地区及び協力校への指導助言の充実

- ・協力校に対し、指導主事による学校訪問の回数を充実し、授業参観及び指導内容・指導方法等についての指導助言を行った。（延べ8回訪問）

2. 推進地区における取組

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立

① 道教委が作成した「分析ツール 北海道版」を活用し、全国学力・学習状況調査の結果を分析するとともに、課題に基づき、年間を通した学力向上の取組を推進した。

② 全国学力・学習状況調査の自校採点結果と児童質問紙の回答を関連付けて分析し、学習指導の成果と課題を明らかにするとともに、実効性ある取組を推進するよう指導した。

③ 全国学力・学習状況調査等の結果と児童の実態を踏まえ、学力向上に向けた具体的な数値目標を設定し、目標達成に向けた有効な取組の推進など、検証改善サイクルを確立するよう指導した。

(2) 学習指導の充実

① 授業の冒頭における学習課題の提示や課題と正対したまとめを行うなど、指導過程の工夫・改善を図る取組や、授業のねらいを達成するための言語活動を位置付ける取組などを推進することができるよう先進事例等を提示した。

② 校長会議・教頭会議において、全ての小・中学校における学習規律・生活規律の作成を促し、定期的に成果と課題を把握し、定着を図るよう指導した。

③ 授業内容との関連を図った宿題の具体例を提示するなど、家庭学習の取組の充実を図ることができるよう支援した。

④ 「生活リズムチェックシート」の活用例を示すなど、生活習慣の確立に向けた取組について支援した。

⑤ 9年間を見通した各教科等の年間指導計画の作成や学習規律の設定について、組織的に取組を推進するよう指導した。

(3) 成果の普及

① 協力校の取組や先進地域の視察の成果を発表する場面を設定した。

3. 協力校における取組

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立

① 全国学力・学習状況調査の分析

- ・調査終了後、学級担任・教務・教頭が自校採点を実施し、各教科及び児童質問紙調査の結果分析を行い、全教職員で課題を共有した。また、調査結果を踏まえ、授業改善と児童への指導について教職員の共通理解を図った。

② 「分析ツール北海道版」の活用

- ・分析ツールを活用し、詳細な分析を行うとともに、全国学力・学習状況調査問題の中で正答率の高かった問題と低かった問題を校内研修で解き、児童がつまづいている内容を確認し、授業改善と児童への指導について教職員の共通理解を図った。
- ・授業改善の具体的な視点と数値目標を設定した。

③ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の実施と分析

- ・北海道教育委員会が定期的に配信している全てのチャレンジテストを、授業のまとめに位置付けて実施した。テストの結果については、「北海道学力向上Webシステム」を用いて分析し、授業改善に活用した。

④ 学校教育指導（コンサルティング）による指導主事の定期訪問

- ・コンサルティングとしてオホーツク教育局教育支援課義務教育指導班指導主事の定期訪問を実施した。

(2) 授業改善の充実

① 国語の研究を通じた授業改善

- ・国語の研究を中心に、授業改善の視点を明確にした授業実践を行った。また、視点を踏まえて、指導計画の改善を行った。

② 学習規律の共通化

- ・学習規律について、校内研修等を通じて全教職員で検討するとともに、共通理解を図った。また、授業交流等を通じて、定期的に定着状況を確認した。

③ 家庭での学習・生活習慣を確立する取組の推進

- ・授業の内容と関連を図った宿題の提示の仕方について協議し、共通理解を図った。
- ・望ましい生活習慣の確立について、保護者等に対して説明するとともに、「生活リズムチェックシート」の活用を働きかけた。

④ 先進校の視察

- ・全国学力・学習状況調査の結果から成果を上げている沖縄県の小学校2校、教育委員会を中心に学力向上に組織的に取り組んでいる横浜市を視察し、今後の取組の方向性を明確にした。

⑤ 授業公開の実施

- ・全学年において国語科の授業公開を実施し、本事業の協力校としての取組の成果の検証及び成果の普及を図った。

○ 実践研究の成果

1. 協力校における取組の成果

(1) 全国学力・学習状況調査等の結果の分析

- 国語においては、「漢字の読み書き」や「目的に応じて、必要な図や表などを関連付けて読むこと」で、全道平均とほぼ同様の結果であったが、「自分の考えを説明するために必要な表現を選んで考えること」や「目的や意図に応じて自分の考えをまとめ文章に書き表すこと」で、課題が見られた。今後、話したり聞いたりする場面を意図的に設定し、場面意識や目的意識を高めるなど、言語活動を工夫することが必要である。
- 算数においては、「基礎的な計算」や「図形を比較しながら図形のきまりを考えること」で、

全道平均とほぼ同様の結果であったが、「与えられた条件や情報を基に、問われたことに対する答えを求め、その理由を言葉と式を使って過不足なく説明すること」や「式の意味や割合・百分率を説明したり、今までの学習を使って書いたりして解決していくこと」に課題が見られた。今後、話し合ったり、考えを書いたりする活動の充実を図る必要がある。

(2) ほっかいどうチャレンジテストの結果の分析

- 「ほっかいどうチャレンジテスト（国語、算数）において、平成28年度は、24教科中21教科で、全道の平均正答率との差が2ポイント以内であった。しかし、全道平均を下回っている教科が多いことから、基礎・基本の確実な定着を図る授業改善が必要である。

(3) 学校評価、児童アンケートの結果の分析

- 学校評価の平成27年度と平成28年度の「当てはまる」と回答した割合の比較において、「学校は、基礎的・基本的な学力を子どもに定着させるよう努めていると思いますか」の項目で、2.8ポイント、「子どもたちは、自分のよさを発揮しながら楽しく学習を進めていますか」の項目で、4.2ポイントの向上が見られた。また、その他の基礎的・基本的な学力を子どもに定着させる取組に係る項目において、保護者の約8割から肯定的な評価が得られた。
- 児童アンケートの平成27年度と平成28年度の比較において、「国語が楽しい」の項目について、肯定的な回答が20%以上増加した。

2. 実践研究全体の成果

- 事業開始すぐに、北海道学力向上推進協議会を開催し、推進地域、推進地区、協力校代表者で事業の円滑な推進について確認することにより、「北海道学力向上推進協議会」の計画的な開催及び継続的な学校訪問、推進地区及び協力校に対するきめ細かな支援を行うことができた。
- 重点的な学校訪問や、協力校による全学級授業公開及び研究協議を行い、授業改善に向けた取組を推進することができた。
- 各種調査等の結果の分析により、課題を明らかにするとともに、学習規律の統一や言語活動の充実などについて取り組むことができた。
- 全国学力・学習状況調査や「ほっかいどうチャレンジテスト」に関する数値目標を設定し、検証を行うとともに、学校評価、児童アンケート等を活用し、成果と課題を明確にすることができた。

3. 取組の成果の普及

- 公開研究会等を開催し、学力向上の取組や成果を普及した。
 - ① 「第1回北海道学力向上推進協議会」
平成28年10月18日（火） 今年度の取組についての説明及び協議
会 場：遠軽町教育委員会
参加対象：北海道教育委員会担当者、遠軽町教育委員会担当者、遠軽町立遠軽小学校
管理職及び担当者
参加人数：9名
 - ② 「第2回北海道学力向上推進協議会」

平成29年2月9日（木） 全学級授業公開、先進地域・先進校視察報告、今年度の取組についての説明及び協議

会 場：遠軽町立遠軽小学校

参加対象：北海道教育委員会担当者、遠軽町教育委員会担当者、遠軽町立遠軽小学校管理職及び担当者、管内の小・中学校管理職及び教諭、管内の教育委員会職員、保護者・地域住民等

参加人数：全学級授業公開 28名

説明及び協議 13名

○ 今後の課題

- ・本年度の実践研究の取組の成果を、平成29年度の全国学力・学習状況調査の結果から検証する必要がある。
- ・全国学力・学習状況調査問題や「授業アイデア例」（国立教育政策研究所）等を積極的に活用し、授業改善を進める必要がある。
- ・各学校の学力向上を主に担当する教員に対して、全国学力・学習状況調査の分析方法や調査を効果的に活用した授業改善の在り方等について研修する機会を充実させる必要がある。
- ・「ほっかいどうチャレンジテスト」を繰り返し活用し、学習内容の定着を図る取組を継続的に進める必要がある。
- ・継続的な家庭学習の取組や、学期末や学年末における相当量の復習期間の設定など、学習内容の定着を図る取組を徹底する必要がある。
- ・協力校の取組をW e b ページで紹介するなど、成果を普及する必要がある。

（注1）「学校力向上に関する総合実践事業」

- ・管理職のリーダーシップの下で学校改善を推進することにより、当該校から将来のスクールリーダーを輩出する新たな仕組を構築するため、道教委が指定する実践指定校において平成24年度から実施している事業

（注2）「平成28年度全国学力・学習状況調査 北海道版 結果報告書」を活用した「分析ツール北海道版」

- ・道教委が作成した、各市町村や学校が、自らの結果を詳細に分析できるよう、レーダーチャート、下位層の状況、学校間のばらつきなどのデータが簡単に作成できるツール

（注3）「ほっかいどうチャレンジテスト」

- ・各学校や家庭において学力向上や学習習慣の改善に向けた日常的に取り組みやすい資料として、学期ごとの学習内容や、本道の児童生徒が苦手としている内容等を踏まえた国語、算数・数学、理科、社会の問題
- ・平成21年度から継続して作成し、道教委W e b ページに掲載

（注4）「北海道学力向上W e b システム」

- ・チャレンジテストの実施から集計・分析までの時間が短縮され、全道・管内と比べた自校の基礎学力を入力と同時に把握することができるとともに、集計結果を活用して、子どものつまずきに応じたきめ細かな指導や放課後等の補充的な学習サポートの充実などに生か

すことができるシステム

(注5) 生活リズムチェックシート

- ・子どもの望ましい生活習慣等に対する関心や意欲を高め、その改善と定着することをねらいとして道教委が作成
- ・家庭での生活時間などを記入し、生活の様子を振り返ることができるもの

(様式2)

「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成28年度委託事業完了報告書

【推進地区】

都道府県名	北海道	番号	01
-------	-----	----	----

推進地区名	遠軽町
-------	-----

○ 推進地区として実施した取組内容

1 研究課題

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立について

- 各種調査等の結果を活用した授業改善の推進
- 児童生徒の実態等を踏まえた学力向上の数値目標の策定
- 目標の達成に向けた具体的な改善策の策定

(2) 学習指導の充実について

- 児童生徒の学力向上を図る指導過程の確立
- 授業のねらいを達成する言語活動の設定
- 学習規律・生活規律の徹底
- 家庭学習の充実を含めた家庭での生活習慣の確立

2 研究課題への取組状況

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立

- ① 道教委が作成した「分析ツール 北海道版」を活用し、全国学力・学習状況調査の結果を分析するとともに、課題に基づき、年間を通した学力向上の取組を推進した。
- ② 結果公表の前に、全国学力・学習状況調査の自校採点結果と児童質問紙の回答を関連付けて分析し、学習指導の成果と課題を明らかにするとともに、実効性ある取組を推進するよう指導した。
- ③ 全国学力・学習状況調査等の結果と児童の実態を踏まえ、学力向上に向けた具体的な数値目標を設定し、目標達成に向けた有効な取組の推進など、検証改善サイクルを確立するよう指導した。

(2) 学習指導の充実

- ① 授業の冒頭における学習課題の提示や課題と正対したまとめを行うなど、指導過程の工夫・改善を図る取組や、授業のねらいを達成するための言語活動を位置付ける取組などを推進することができるよう先進事例等を提示した。

- ② 校長会議・教頭会議において、全ての小・中学校における学習規律・生活規律の作成を促し、定期的に成果と課題を把握し、定着を図るよう指導した。
 - ③ 授業内容との関連を図った宿題の具体例を提示するなど、家庭学習の取組の充実を図ることができるよう支援した。
 - ④ 「生活リズムチェックシート」の活用例を示すなど、生活習慣の確立に向けた取組について支援した。
 - ⑤ 9年間を見通した各教科等の年間指導計画の作成や学習規律の設定について、組織的に取組を推進するよう指導した。
- (3) 成果の普及
- ① 協力校の取組や先進地域の視察の成果を発表する場面を設定した。

【協力校の会議等への出席】

第1回	10月18日	第1回学力向上推進協議会の開催（取組内容と今後の取組に向けて）
第2回	11月29日	オホーツク教育局指導主事による学校教育指導及び校内の授業交流の実施
第3回	12月8日	学校教育局義務教育課指導主事及びオホーツク教育局指導主事による学校教育指導及び校内の授業交流の実施
第4回	1月11日	先進地域視察（那覇市立仲井間小学校、那覇市立天久小学校）
第5回	1月26日	オホーツク教育局指導主事による学校教育指導及び校内の授業交流の実施
第6回	2月9日	全学級授業公開、第2回学力向上推進協議会の開催（取組の成果、今後の方向性の確認）
第7回	2月23日	先進地域視察（横浜市立青木小学校、横浜市教育委員会）

3 実践研究の成果の把握・検証

- (1) 道教委の「分析ツール 北海道版」を活用し、全国学力・学習状況調査の詳細な分析を行った。

【平成28年度全国学力・学習状況調査の町内の結果】

<小学校>

- ・教科に関する調査において、国語Aでは、「話すこと・聞くこと」で、全国を上回っている。
- ・児童質問紙調査において、「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。また、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。
- ・学校質問紙調査において、「算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた」

と回答した学校の割合が、全国を上回っている。また、「児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

- ・算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与え、評価・指導することにより、新しい問題を解いてみたいと思ったり、解き方や考え方が分かるようにノートに書いたりするなど、学習意欲が高まったと考えられる。

<中学校>

- ・教科に関する調査において、国語Aでは、「話すこと・聞くこと」で、全国を上回っている。また、数学Aでは、「資料の活用」で、全国を上回っている。
 - ・生徒質問紙調査において、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。また、「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」の質問に、「その場で先生に尋ねる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。
 - ・学校質問紙調査において、「数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか」の質問に、「おおよそ3/4以上で行った」と回答した学校の割合が、全国を上回っている。また、「前年度までに、ボランティア等による授業サポートをよく行った」と回答した学校の割合が、全国を上回っている。
 - ・学校が少人数による指導やボランティア等による授業サポートを行い基礎的・基本的な内容の定着を図ったことにより、授業の中で分からないことをそのままにしないなど、自ら主体的に学習に取り組む姿勢が醸成されたと考えられる。
- (2) 全国学力・学習状況調査及び「ほっかいどうチャレンジテスト」等の結果の分析・考察を行った。
- 「ほっかいどうチャレンジテスト（国語、算数）の平均正答率の全道平均との差が2ポイント以内」という数値目標を設定した。
 - 協力校における平成28年度の結果は、第1～6学年の2回で、24教科中21教科が全道平均との差が2ポイント以内だった。
 - 全道平均を下回っている教科が多いことから、今後も基礎・基本の確実な定着を図る授業改善が必要である。
- (3) 学校評価や児童アンケートの結果の分析・考察と実践成果の検証を行った。
- 協力校の学校評価からは、基礎的・基本的な学力を子どもに定着させる取組について、保護者の約8割から肯定的な評価を得ることができた。

【学校評価（当てはまると回答した割合）】

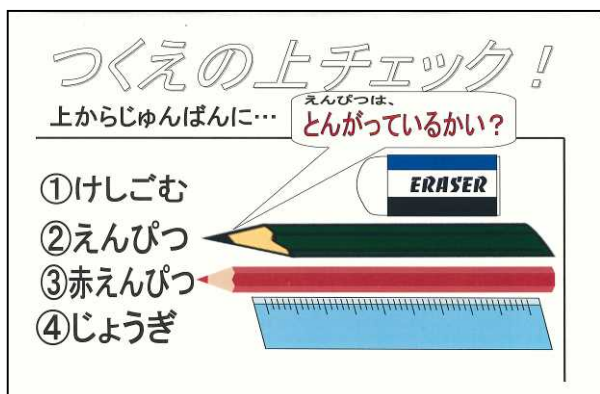
評価項目	H27 と H28 の比較
学校は、基礎的・基本的な学力を子どもに定着させるよう努めていると思いますか。	+2.8
子どもたちは、自分のよさを発揮しながら楽しく学習を進めていますか。	+4.2

- 協力校の児童アンケートからは、「国語が楽しい」の項目について、肯定的な回答が前年

度から 20%以上増加した。

- (4) 学習規律の徹底を重点とし、モデルとなる学習規律を町内の小・中学校に提示したことで、組織的な取組が推進された。

【全学級に掲示された筆記用具の整理図】



【統一された机上の筆記用具の置き方】



- (5) 学校教育局、オホーツク教育局と連携を図り、全学級授業公開を実施し、町内各小・中学校教員やPTA、地域企業関係者、教育委員会職員に、これまでの実践の成果を示すことができた。

【成果】

- ・全ての学年で学習規律の徹底が図られたことで、授業に集中して主体的に学ぶ姿が見られた。
- ・全ての教員が課題とまとめを位置付けた授業を行うことで、児童は見通しをもって学習することができた。

【課題】

- ・課題の解決方法を振り返る場面を設定するなど、深い学びを促すことができるよう授業改善を図る必要がある。
- ・グループ学習の目的を児童に示すなど、対話的な学びの中から思考を深めることができるよう授業改善を図る必要がある。

【全学級の授業公開・第2回学力向上推進協議会の様子】



4 今後の課題

(1) 課題

- ① 学力の定着に向けて、家庭と連携した取組を推進する必要がある。
- ② 協力校における取組を町内全ての小・中学校と共有し、9年間を見通した学習規律や生活規律の確立を図る必要がある。
- ③ 研究課題に対する取組状況や成果の発信方法を工夫し、研究成果を普及させる必要がある。

(2) 手立て

- ① 全国学力・学習状況調査やほっかいどうチャレンジテスト及び標準学力テスト等の結果を経年比較し、課題を明確にするとともに、具体的な改善策を家庭と共有するよう学校教育指導を通して指導する。特に、ノート指導と家庭学習の関連を図り、家庭での学習習慣の確立に向けた取組を推進する。
- ② 学習規律や生活規律の統一を図るため、中学校区の小・中学校の教頭及び教務主任が協議したり、公開授業を参観し合ったりする場を設定する。
- ③ 研究成果の還元を図るため、成果を発表する場を設けるとともに、町内の全小・中学校の教職員、教育関係者、地域住民等に公開研究会等への参加を積極的に呼び掛ける。

(様式3)

「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(小・中学校)」

平成28年度委託事業完了報告書

【協力校】

都道府県名	北海道	番号	01
-------	-----	----	----

協力校名	遠軽町立遠軽小学校
------	-----------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 当初の課題

(1) 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた現状と課題(数値は全国平均との差)

① 教科に関すること

- ・国語においては、国語Aが15.6ポイント、国語Bが24.0ポイント低い状況である。
- ・算数においては、算数Aが17.4ポイント、算数Bが14.0ポイント低い状況である。
- ・国語、算数ともに、「記述式問題」の平均正答率が低い。

② 児童質問紙に関すること

- ・「国語の授業の内容は分かるか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、47.2%であり、全国と比較し、34.8ポイント下回っている。
- ・「算数の授業の内容が分かるか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、83.3%であり、全国と比較し、2.3ポイント上回っている。
- ・「家で計画を立てて勉強しているか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、91.7%であり、全国と比較し、28.9ポイント上回っている。
- ・「学校に行くのが楽しいか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、86.1%であり、全国と比較し、0.9ポイント下回っている。
- ・「学校の規則を守っているか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、88.9%であり、全国と比較し、2.4ポイント下回っている。
- ・「授業のはじめに目標・ねらいが示されているか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、83.3%であり、全国と比較し、3.0ポイント下回っている。

2. 協力校としての取組状況

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立

① 全国学力・学習状況調査の分析

- ・調査終了後、学級担任・教務・教頭が自校採点を実施し、各教科及び児童質問紙調査の結果分析を行い、全教職員で課題を共有した。また、調査結果を踏まえ、授業改善と児童への指導について教職員の共通理解を図った。

② 「分析ツール北海道版」の活用

- ・分析ツールを活用し、詳細な分析を行うとともに、全国学力・学習状況調査問題の中で正答率の高かった問題と低かった問題を校内研修で解き、児童がつかずしている内容を確認し、授業改善と児童への指導について教職員の共通理解を図った。
- ・授業改善の具体的な視点と数値目標を設定した。

【授業改善の視点】

- ・国語を窓口とした児童の話す・聞く能力の育成
- ・学習規律の徹底

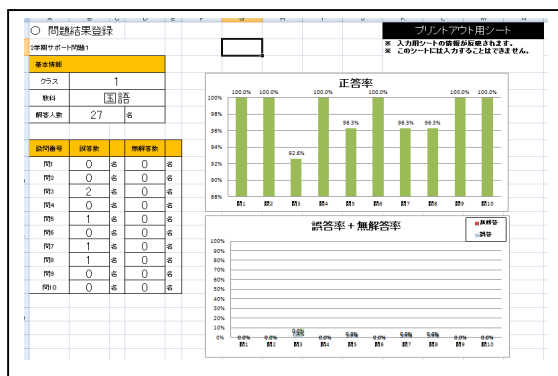
【数値目標】

- ・全国学力・学習状況調査の平均正答率の全道平均との差を3ポイント以内にする。
- ・ほっかいどうチャレンジテストの平均正答率の全道平均との差を2ポイント以内にする。

③ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の実施と分析

- 北海道教育委員会が定期的に配信している全てのチャレンジテストを、授業のまとめに位置付けて実施した。テストの結果については、「北海道学力向上Webシステム」を用いて分析し、授業改善に活用した。

【第1学年国語（2学期サポート問題1）の分析】



・左図は、2学期サポート問題第1学年国語の分析資料である。誤答数が減り、無回答数が0となっている。しかし、問題によっては正答率に開きがあり、要因分析を行い授業の中で指導した。

・結果分析を視覚的に示し、誤答・無解答については個別に指導し改善した。

④ 学校教育指導（コンサルティング）による指導主事の定期訪問

- コンサルティングとしてオホーツク教育局教育支援課義務教育指導班指導主事の定期訪問を受けた。

ア 教師への指導

- 授業参観、研究協議における指導助言、ミニ講座の実施
- 授業、給食指導、清掃指導等におけるT・Tの実施

イ 本事業に係る指導

- 計画的な事業の推進について指導助言
- 全学級授業公開に向けた指導助言
- 先進校視察における授業参観の視点等について指導助言

(2) 授業改善の充実

① 国語の研究を通じた授業改善

- 国語の研究を中心に、視点を明確にした授業実践を行った。また、視点を踏まえて、指導計画の改善を行った。

【授業改善の視点1】

- 学びの観点の明確化
- 「知りたい」を引き出す課題提示

【授業改善の視点2】

- ペア学習等の学習形態の工夫
- つながりを意識した伝え合い

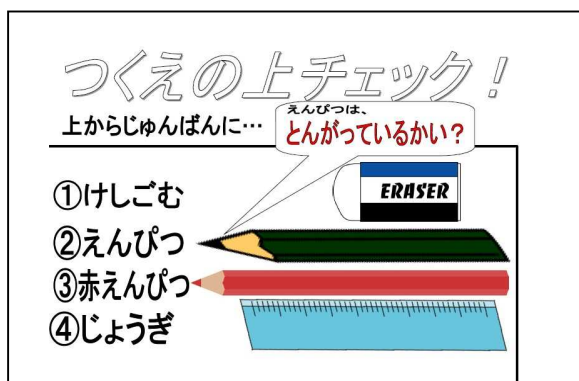
【授業改善の視点3】

- 単元の終末の明確化
- 身に付けさせたい力を明確にした単元設定

② 学習規律の共通化

- 学習規律について、校内研修等を通じて全教職員で検討するとともに、共通理解を図った。また、授業交流等を通じて、定期的に定着状況を確認した。

【机上整理に関する学習規律】



・児童が集中して授業に取り組む環境づくりを目指し、指導項目を設定した。

・どの学年、どの授業、どの教師でも同じねらいで同じ指導をするため教職員間で共通理解を図るとともに、学年や学級が変わっても継続した取組ができるよう全ての教室に掲示した。

・今後、定着状況を確認し、指導項目や内容を検討する。

- ③ 家庭での学習・生活習慣を確立する取組の推進
 - ・授業の内容と関連を図った宿題の提示の仕方について協議し、共通理解を図った。
 - ・望ましい生活習慣の確立について、保護者等に対して説明するとともに、「生活リズムチェックシート」の活用を働きかけた。

- ④ 先進校の視察
 - ・全国学力・学習状況調査の結果から成果を上げている沖縄県の小学校2校、教育委員会を中心にした学力向上に組織的に取り組んでいる横浜市を視察し、今後の取組の方向性を明確にした。

ア 沖縄県の学校視察

<那覇市立仲井真小学校>

校内研修として国語科の研究に取り組み、「学びの10の観点」、「感想のことば」の活用、学習環境の整備を重点に研究している。

<那覇市立天久小学校>

校内研修として算数科の研究に取り組み、「学びの根っこ」の徹底、「算数学習の約束」学習形態の工夫を重点に研究している。

イ 横浜市の学校視察

<横浜市立青木小学校>

横浜市学力・学習状況調査等の結果を全教職員で分析し、学習指導の成果と課題を明確にするとともに、課題の具体的な改善策を共有し、日常の授業改善を図っている。

【今後の取組の方向性】

- ・学習規律の徹底を図り、児童が集中して授業に臨めるようにする。
- ・学び合いや伝え合いの場面を授業に位置付け、児童が自分の考えを深められるようにする。
- ・全国学力・学習状況調査等に基づく検証改善を進める体制を確立する。

- ⑤ 授業公開の実施
 - ・全学年において国語科の授業公開を実施し、本事業の協力校としての取組の成果の検証及び成果の普及を図った。

3. 取組の成果の把握・検証

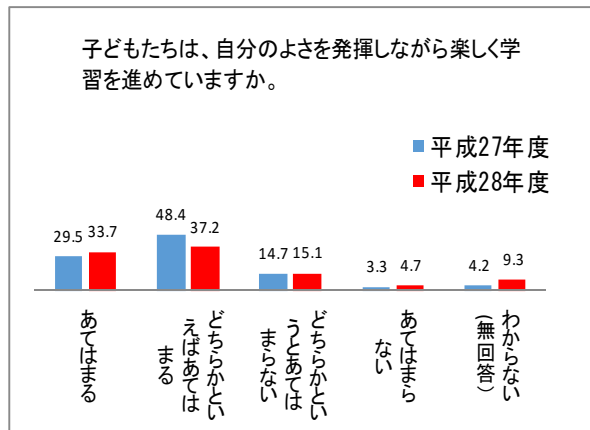
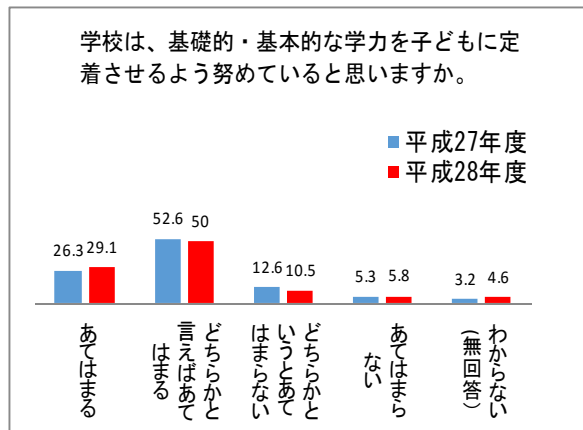
(1) ほっかいどうチャレンジテストによる検証

ほっかいどうチャレンジテスト（国語、算数）の平均正答率の全道平均との差が、平成28年度は24教科中21教科で2ポイント以内だった。しかし、全道平均を下回っている教科が多いことから、基礎・基本の確実な定着を図る授業改善が必要である。

(2) 学校評価アンケートによる検証

基礎的・基本的な学力を子どもに定着させる取組について、保護者の約8割から肯定的な評価を得ているが、児童のよさの発揮については、否定的な意見も見られることから、児童の状況を丁寧に見取った授業改善に努めていく必要がある。

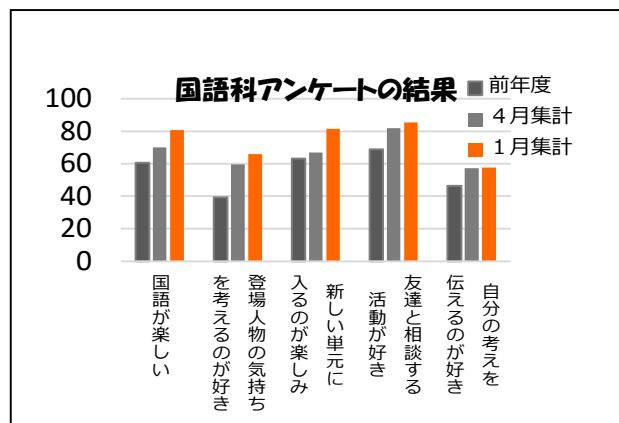
【学校評価アンケートからの抜粋（数値は%）】



(3) 児童アンケートによる検証

「国語が楽しい」の項目について、肯定的な回答が前年度から20%以上増加した。これは、単元の学習計画を立てることで目的意識をもって学習に取り組む児童が増えてきていることが考えられる。また、「自分の考えを伝えるのが好き」の項目については、前年度から肯定的な回答が10%増加しているものの、平成28年4月からは増加していない状況が見られ、発表や説明に対して自信がもてていないことがその要因であると考えられる。

【児童アンケート（数値は%）】



(4) 授業公開による検証

全学年において行った国語科の授業公開における授業後の協議及び授業参観者のアンケートを基に成果と課題を明確にした。

【成果】

- ・全ての学年で学習規律の徹底が図られたことで、授業に集中して主体的に学ぶ姿が見られた。
- ・全ての教員が課題とまとめを位置付けた授業を行うことで、児童は見通しをもって学習することができた。

【課題】

- ・課題の解決方法を振り返る場面を設定するなど、深い学びを促すことができるよう授業改善を図る必要がある。
- ・グループ学習の目的を児童に示すなど、対話的な学びの中から思考を深めることができるよう授業改善を図る必要がある。

※授業参観者によるアンケートについては別紙資料参照

4. 今後の課題

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立

- 平成29年度全国学力・学習状況調査について、全教職員による自校採点及び分析により、全教職員が課題と授業改善の視点を共有するとともに、組織的な取組を推進する必要がある。
- 「分析ツール北海道版」等を活用し、児童のつまずきを明確にした授業改善を行う必要がある。

(2) 授業改善の充実

- 前年度までの課題と成果を踏まえるとともに、先進校視察から得た授業改善の視点を校内研修へ位置付け、研究内容の充実を図る必要がある。
- 過去の調査問題、チャレンジテスト等を活用し、児童のつまずきに基づき、個に応じた指導の充実を図る必要がある。
- 自分の考えを表現させるノート指導について、指導の充実を図る必要がある。
- 学習習慣や生活習慣の確立に向け、小・中学校の発達の段階や指導の系統性を踏まえるとともに、家庭と連携を図った取組を推進する必要がある。

(3) 事業の円滑な推進

- 事業を円滑に推進するため、オホーツク教育局、遠軽町教育委員会と一層連携した取組が必要である。また、成果の普及方法について検討する必要がある。